

# 様式 2

## 平成19年度第2回安曇野市放課後子どもプラン運営委員会 会議概要

1	審議会名	平成19年度第2回安曇野市放課後子どもプラン運営委員会
2	日 時	平成19年7月23日 午後7時から午後9時まで
3	会 場	豊科公民館二階大会議室
4	出席者	浅川会長、宮下委員、三好委員、原田委員、歌代委員、矢口委員、横内委員、貝原委員、小笠原委員、三澤委員、中田委員、川口委員、西村委員、塩原委員、腰原委員、松枝委員
5	市側出席者	保崎教育課長、山田教育課長、唐沢教育課長、堀内教育課長、丸山生涯学習係長、竹田生涯学習係長、等々力生涯学習係、市川生涯学習係、宮沢生涯学習係、渋田見子ども支援係長、堀子ども支援係
6	公開	
7	傍聴人 2人	記者 0 人
8	会議概要作成年月日	平成19年7月31日
協 議 事 項 等		
1、	会議の概要	
(1)	開会	
(2)	あいさつ	
(3)	議事	
		①豊科地域3校、明科地域2校の実施状況について ②実施5校における、追加登録について ③実施5校における、土（日）事業について ④未実施の穂高3校、三郷1校、堀金1校について ⑤そのほか
2、	議事の概要	
(1)	豊科地域3校、明科地域2校の実施状況について	
		【事務局より前回会議の概要説明】 【事務局より放課後子ども教室の実施状況の概要説明】
委 員		：明北小は30名程度、明南小の場合は85名ほどがこの事業に登録している。学校のプロの担任の先生でさえ、30名程度をみているが、素人のスタッフが見る数としては限界を超えている。子どもたちを集めることはできるが、きちっと、話をきかせる体制になるのに10分ぐらいかかる。地域の方々の支援がありできている。まだまだ問題点もあるが、意見をいただきながらよい方向へ向けていきたいと思う。
委 員		：豊科地域は始めて4年目ということで、子どもたち、スタッフもだいぶ慣れてきた。今年は、希望者が多い。毎年夏休み前になると出席人数が少なくなる傾向があるが、今年は出席率が下がらない。スタッフも大勢ではないので、スタッフは常にフル回転で出勤している。明科と違う部分がある。豊科の場合は子どもたちが動き回る遊びをする。特にドッチビーをものすごく喜んでいる。子どもを迎えに来たお家の方には、一言話すようにしている。いまのところ大きな問題はない。
会 長		：わいわいランドに関わって意見等があったら出して頂きたい。校長の方々お気づきのことはあるか。
委 員		：その時間は、クラブや職員会などで見ていない。
会 長		：参加児童が非常に多い。豊科地域では3年間の実績を踏まえながらいろいろと工夫をして実施し、また、親への指導も大切にしている状況である。
(2)	実施5校における、追加登録について	
事務局		：この事業が始まる前に、保護者向けに募集案内をしたが、その際に追加の募集についてどうするかということ地域連絡協議会のなかで検討し、学期途中のバラバラの追加登録は認めない方向で来た。ただ、学期末ぐらいに追加希望を考えていきたいという返事をだしておいたが、実際に始まり豊科南、豊科北小では登録人数が120人から100人をこえている。明南小でも85人という多人数の中で追加登録をどういう方向で行ったらいいのか、協議をいただきたい。
会 長		：私が児童館で児童クラブに携わっていたときには定員40～45とした。それ以上になった場合には空きがでるまで、待機していただいた。豊科南小で登録者が126人と、多いが、これが限度ですね？
委 員		：はい。体育館の広さからいっても、あれ以上増えると、かえってケガをする子どもたちや、スタッフ

の目が行き届かないということがでてくる。

委員：明科の場合は登録人数は少ないが、今年スタートしたばかりでスタッフも子どもも慣れていない。ここでまた慣れない子どもを増やすということは大変なこと。ただ、その反面、わいわいランドに登録していない子どもがわいわいランドを見にくる。一緒に遊びたくて入り口のあたりにいる。そういうのを見ると、駄目だということもかわいそう。だからはっきり、追加登録は駄目と言っていいのか、かわいそうだから受け入れた方がよいのか、両方の想いがある。

委員：豊科でも、最初るとき、登録していない子が、のぞきにきた。でも、「また来年入ってね」って言って帰した。そういってはいった子というのは、最初はくるが、途中でやめてしまう子が多い。

会長：ここは非情なようだが、安全面を最優先し、追加登録は、少し様子を見て余地が確認できてから。

委員：私の小学校では現在、水曜日の下校時刻が低学年と高学年で違うので、来年度については学年ごとに下校時刻が変わらないような検討をしたい。

事務局：様子を見ながら追加希望の声があったら、検討して追加登録していきます。

### (3) 実施5校における土日の事業について

事務局：今、平日の水曜日のみ事業をおこなっているが、土・日曜日の子どもの居場所ということで、事務局としては土・日曜日にも事業を実施する予定でいた。ただ、先日別の会議の中で校長先生から、土・日曜日に事業を行うと、子が疲れ、月曜に学校を休む子が増える、という声がかかれた。たしかに、スポーツ少年団、地域での事業、育成会での事業などたくさんあるので、検討が必要と思う。反面、親子参加の行事を設ければそれが、親子の触れ合いの機会になるという声も聞かれている。ここら辺りを踏まえ、土・日曜日事業をどういう方向で持っていくらよいか、みなさんのご意見お聞かせいただきたい。

委員：豊科では、ニュースポーツ玉手箱を、年に3回の予定でやっていた。ニュースポーツというのはだれでもが取り組める、すんなりと仲間に入れるスポーツ。はじめは午前中だけやっていたのだが、お母さんたちが送り迎えをするのに、午前中に子どもたちが帰ってくると母親がなにもできないということで、午後までやっていた。子どもたちは普段給食なので、弁当をすごく喜んでいて、なかには、家族中で参加してくれた家庭もあった。

事務局：明科では、みつけ隊活動というのを、地域子ども教室事業として三年間実施した。毎月1回程度だが、土曜日、日曜日に、主に野外活動をやっていた。私は個人的な考えとして、土日に学校の体育館を使うとなれば、社会体育と競合するし、なによりスタッフが確保できるかという問題もある。子どもは休日が一番忙しい。

委員：放課後子どもプランという名称なので、活動の中心は放課後でよいと思うが、国からの資料では休日についても、子どものニーズにこたえて柔軟に対応せよとある。確かに休日には育成会とかスポ少とかがあり、子どもは忙しい。今年は放課後子ども教室がスタートしたばかりということで、まずは、放課後を中心にしながら、事業を実施し、様子を見て、土曜日、日曜日に広げていくということで、どうか。

委員：家族のふれあいが今非常に希薄になってきていると言われている。その一方で行政などが行事をして家庭から子どもを離すような傾向にし、本当は家族でふれあえるのに、その機会を逆にうばっているととれる部分もあるのではないかと。その辺りのところをどのように考えたらよいのかと。

委員：PTAでも去年、放課後に子どもを、学校でみてくれるということが話題になった。児童館の児童クラブでは3年生までしか預かってくれないのが現状だが、4～6年でも、今こういう時代なので、家に一人であるような場合は、心配しているお母さんは多い。今は水曜日だけということだが、できれば平日、こんなにスポーツなどをしなくてもよいので、毎日実施していただくことを、母親はみんな求めていると思う。もちろん子どもの面倒は家庭で見るとは前提なのだが、親が求めていることと現状がちょっと離れている気がする。穂高北小学校は、小学校と離れたところに児童館があり、もっと近くならばという意見がある。また、高学年も預かってほしいというのが実状です。まだ穂高では放課後子ども教室が始まっていないが、できれば始めていただいて、むしろ全学年対象の居場所を提供していただければよい。土日はやはり子どもたちが忙しい。サッカーに入っていたりとか、育成会の行事ですら、スポ少で参加できないということがあります。家族と一緒に参加できるような行事ならいいと思うが。

委員：前回の運営委員会でも言ったように、一日だけのわいわいランドよりも平日毎日、高学年まで子どもの居場所の確保をしていただく、児童館みたいなものを優先して充実してほしい。土日の休みは、子どもが忙しく、日程のやりくりも四苦八苦。土日の行事は限界ではないかなと思う。

委員：わたしの子どものころは昼休みが終わったくらいから、自然発生的に今日はなにをしようかなという具合で、だいたいグラウンドで遊んだ。場所を提供してもらう程度で十分ではないのかと思う反面、実際にこの事業にこれだけ多くの子どもが登録しているので迷う。

委員：今ほとんどの意見がそうであったように、土曜日、日曜日に、さらに事業実施するのはどうかと。その一方で、私は明科ですがみつけ隊活動には私の子どもも喜んで行っている。行きたい遊び、行きたいテーマに対して募集するという行事ならそれはぜんぜん苦にならないと思う。ただ、毎週毎週やるという行事はいかがなものかなと

会長：毎週やらなければいけないというのではなく、みつけ隊の内容みたいなもの、家族で参加できるようなものやっつけていけるとよいかと

事務局：皆さんからのご意見があったとおり、土日に放課後子ども教室の一環として子どもを集めて事業を行う必要はないと事務局も判断する。ただし、より多くの子どもを集めようという行事ではなく、明科のみつけ隊活動のように、青少年健全育成というなかで、比較的家庭ではできない遊びを含めた体験活動を、放課後子ども教室とは別の切り口で、地域において進めたいという考えがある。各地域に毎週ではないが、多くて月に一回ぐらいの地域ごとの行事が必要かと。また、これとは別に、地域の枠を越えて行うようなサマーキャンプ、堀金の真鶴町などの大きな事業も安曇野市にはあるが、やはり放課後子ども教室とは切り離れた形で進めさせていただければと思う。

会 長：土日行事を放課後子ども教室の延長線上で考えることは難しい。ただし、放課後子ども教室とは別に、おこなう地域行事などは大事なところをついていると思うので、積極的に進めていただきたい。できれば家族と一緒に参加できる行事で触れ合いを大切にし、子どものすばらしい目をのぼすということを進めていただきたい。

#### (4) 未実施の穂高3校、三郷1校、堀金1校について

事務局：今現在放課後子ども教室は豊科明科地域5校で実施している。実施をしていない三郷、穂高、堀金地域の5校に関して今後どのような形で進めさせていただいたらよいか、ご意見をいただきたい。

会 長：これからの実施する予定の登録予想の人数を見ると大変な人数になると思うが…

委 員：今明科で困っているのは、スタッフが目を離れた際に体育館から出てしまう子がいる。このあたりのところがスタッフは心配している。東京の葛飾区などの様子をビデオで見せて頂いたが、レベルが高く、勉強をやっているグループ、校庭で遊んでいるグループなど、3ヶ所ぐらいに分かれて実施している。地域のやがかなりこのプランに関わっていてスタッフの人数も多い。明科で実施しているわいわいランドはレベルが低いと感じた。外に子どもを出さないというところに苦勞しているが、本来もっと別のところに、子どもと一緒に遊ぶという部分に苦勞したいのだが、そこまでいたっていない。

会 長：明北小でも体育館から出て、蟹をとりにいってしまう子がいるが、その子とよく話し合った。その後体育館から出ることはなくなった。個別指導が大事だと思った。また、その子のお母さんとも話した。とても多人数になるとそういう問題がでてくると思う。今、レベルという話も出たがだんだんとレベルも高くなればよいと思う。地域によってやらないところとやるところがあると問題だろうし、穂高南小ではどうでしょうか。

委 員：放課後、塾に通ったり、習い事をしている子が多いかなと感じている。もし放課後子ども教室を実施するとすれば、スタッフをやってくださる方が何人集まるか、実際何名の希望者があるかということが重要だと思う。

会 長：来年度は予備調査をし、いろいろな問題があるだろうが、一応全市的に実施したいということですね。

事務局：三郷小で今の割合から希望者を算出すると200人強と予想される。先ごろも児童クラブについて新聞に載っていたが、だいたい40人ぐらいが適正だと書かれていた。その根拠となったのはだいたい学校が今1クラスそのぐらいの規模ということで、管理する数として適正であるだろうと。明南小でも80人、人数が多くなってくるに従い指導が難しい。それが200人となるとそれが途方もない数字であると思う。まずはアンケートでどのぐらいの希望があるのか、スタッフがどれぐらい確保できるかということが実施にあたっての鍵になる。保護者の方、地域の方、相当数の方々にご協力いただかないと実施できないと思うので、状況をみさせていただいてからだと思う。その結果、実施場所を複数にする、という選択も具体的に考えていかなくてはいけない。いずれにしろ、ある地域では実施しており、ある地域では実施していないということは問題。なんとか工夫、知恵を働かせるように努力したい。また、さきほど、日にちを増やしてほしいというご希望もお聞きしたが、これについては今の状況下では難しい。まずはすべての地域できちっとしたものを立ち上げるのが最優先。その後でよりレベルの高い指導ができる状況にしてから、日にちを増やしていく順序だと考えている。

会 長：基本的な方向を話していただいた。全地域で実施の方向に積極的反対はないと思う。ただ、人数、場所などの問題をどうクリアするかという課題があり、十分検討していただいてよい方向で実施できるようにしていただきたい。

#### (5) そのほか

委 員：資料の中で県内の市町村で児童クラブと子ども教室を一緒に実施しているという市町村があるが、どのような工夫をしているのか。

事務局：おそらく一定時間までは子ども教室を実施し、その時間よりさらに居場所として学校にいたい子は有料で児童クラブにのこっているというやり方だと思う。国で進める放課後子ども教室、と児童クラブを一体的に実施しろという理想的な事業展開をしている地域と思う。詳しい資料がないので、この3地域の実施の仕方についてはもう一度確認したい。東京の方では放課後子ども教室と児童クラブを一体としてやっていると多くあるので、そのあたりのところを可能であれば次回の資料としたい。

会 長：はじまったばかりで、いい方向をみつけるために、いろいろと模索している状況です。またご意見をいただきたい。いろいろ課題がのこっているが、是非今後につなげたいと思うので、よろしく願います。